

岩手看護学会誌

巻頭言

忙しさの中、‘かたわら’においていた現象の真実を追究してみませんか	三浦まゆみ	1
-----------------------------------	-------	---

原著論文

体外受精により我が子を得た母親の子どもに対する感情	大谷良子	3
---------------------------	------	---

研究報告

看護系大学における助教の採用・昇任の基準	遠藤良仁, 伊藤収, 浅沼優子, 山内一史	15
高血圧者へのヘルスプロモーション行動促進のための看護介入プログラムの開発と試行	菊池和子, 兼松百合子, 土屋陽子, 千葉澄子, 佐々木悠美, 安藤里恵, 齋藤貴子, 石井真紀子, 野口恭子, 工藤朋子, 坪山美智子, 荻野大介, 安保寛明	24

第1回岩手看護学会学術集会

特別講演「看護実践が語る看護の知―事例検討と集積から見えてきたこと―」	川嶋みどり	35
-------------------------------------	-------	----

学会記事

会告 第3回岩手看護学会学術集会開催	42
平成21年度第2回岩手看護学会理事会議事録	43
平成21年度岩手看護学会評議員会議事録	45
平成21年度岩手看護学会総会議事録	47
平成21年度岩手看護学会総会資料	50
岩手看護学会会則	67
岩手看護学会役員名簿	70
岩手看護学会入会手続きご案内	71
入会申込書	72
岩手看護学会誌投稿規則	73
Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines	77
編集後記	82

第3巻第2号 2009年12月

岩手看護学会

Iwate Society of Nursing Science

巻 頭 言

忙しさの中、‘かたわら’においていた現象の真実を追究してみませんか

平成 21 年 10 月、第 2 回岩手看護学会学術集会が「実践知の共有ーいわてから看護の発信」というテーマで開催されました。午前中の講演を聴いて、日々のケアの中で、ふと疑問に思うこと、納得いかないことなど、忙しさの中で、‘かたわら’においていたことがらが、次々よみがえってきたのではないのでしょうか。また、午後の発表を聞いて、なるほど・・・、そうなのかなあ・・・、あるいは日ごろ取り組んでいることだよなあ・・・、などなど感想を持ちながらその場に参加されたことと思います。時間に追われる日常のなかで、このような学術集会は、自分の体験と重ね合わせながら、援助実践の意味を振り返る機会にもなると私は思っています。

過重な業務の中で、それでもひっかかっていること、誰かに伝えたいと思う体験は、きっと他の方々も捉えている、あるいは関心のある内容だと思うのです。そのことを、まずは周囲につぶやいてみましょう。そうだよなあ・・・、そんなことばが聞かれたら、研究的取り組みの始まりです。

研究発表や論文の投稿は、エネルギーが必要です。でも一つ一つのプロセスを踏むことによってしんどさ以上に充実感が生まれます。それは、もやもやした現象を何とかひもとき、納得したい、という思い、よりよい看護を実践したいという思いに通じているのだと思います。

この岩手看護学会の目的は、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることであり、この目的達成のために学術集会の開催と学会誌の発行が主な事業とされています。

学会誌発行は、編集委員会が担当され、年に 2 回の発行に尽力されています。皆様の研究成果を是非論文として投稿されることを望みます。

岩手県立大学看護学部のホームページに入ると岩手看護学会のホームページにつながります。ここには投稿論文支援窓口の設置が記載されていますのでご覧下さい。

会員みなさまの持つそれぞれの強みを共有すること、そこからまたパワーが生まれてくる、そう思います。

平成 21 年 12 月

岩手看護学会理事
三浦まゆみ

〈原著〉

体外受精により我が子を得た母親の子どもに対する感情

大谷良子

岩手県立大学大学院看護学研究科 博士後期課程

要 旨

体外受精により我が子を得る体験をした母親の、子どもに対する感情を明らかにする目的で半構成面接とその分析を行った。その結果、母親の子どもに対する感情として、「楽しみ・喜び」「感謝」「尊重」「イライラ感・大変さ」「申し訳なさ」の5つが見出された。我が子への感情に影響を及ぼした母親の体験では、〈流産や死産〉〈不妊の負い目〉〈妊娠への期待と落胆の繰り返し〉の体験は、事態を好転させてくれた我が子という認識につながり、困難への対処を母親自身が模索することで人間的成長をした結果、「楽しみ・喜び」「感謝」「尊重」といった感情に至ったと考えられた。一方で、〈不妊期間の長期化〉〈周囲のサポートの不足〉という体験は、母親の強い責任感と内向性・内罰性を助長し、「イライラ感・大変さ」「申し訳なさ」といった感情を高め、母親の感情が不安定になることが推測された。

キーワード; 体外受精, 体験, 母親, 感情

(2009年10月2日受付, 2009年12月25日受理)

<Original Article>

A Mother's Sentiments towards a Child Conceived through in Vitro Fertilization

Yoshiko Otani

Iwate Prefectural University Graduate School, Graduate School of Nursing, Doctoral Program

Abstract

Semi-structured interviews and their analysis were conducted with the aim to clarify a mother's sentiments towards a child conceived through in vitro fertilization. As a result, the following 5 sentiments were observed: "excitement & joy", "gratitude", "appreciation", "frustration & hardship", and "remorse". As regards experiences that have affected mothers' sentiments towards their child, experiences such as "miscarriage or stillbirth", "guilty conscience over infertility", and "repeated hope and disappointment over being pregnant", led mothers to realize their child changed things for the better. As a result of mothers dealing with such challenges, growth as human beings led to such sentiments as "gratitude", "excitement & joy", and "appreciation". On the other hand, "prolonged period of infertility" or "deficiencies regarding support from one's environment" are presumed to foster a mother's strong sense of duty and introverted/intropunitive feelings, as well as increase sentiments of "frustration & hardship" and "remorse", thus leading to sentiments of uncertainty in mothers.

Keywords : In vitro fertilization, experience, mother, sentiment.

<研究報告>

看護系大学における助教の採用・昇任の基準

遠藤良仁 伊藤 收 浅沼優子 山内一史

岩手県立大学看護学部

要 旨

平成19年, 学校教育法一部改正によって「助教」が新たに設置されたことを受け, 看護系大学の対応の実態を把握するために全国の看護系大学168校の代表者を対象にアンケート調査を実施した. 回答のあった50校のうち, 回答内容に矛盾点のない48校を分析した. 結果, 回答校の89.6%で助教を新設し, 29.2%が助手を廃止していた. 助教の採用・昇任基準は, 取得学位が93.0%, 臨床経験が72.1%, 研究業績が46.5%, 教育経験が37.2%であり, それらが10通りの組み合わせによって大学ごとの基準が設定されていた. 研究業績と教育経験は共に設定される傾向がみられ, 助手を存続させている大学が多かった. また, 大学設置基準で示された「教育上の能力」の評価は不十分である可能性が示唆された.

キーワード: 助教, 看護系大学, 資格

(2009年10月20日受付, 2009年12月2日受理)

<Research Report>

Qualifications for an Assistant Professor at Japanese University Schools of Nursing

Yoshihito Endo, Osamu Ito, Yuko Asanuma, Kazushi Yamanouchi,
Iwate Prefectural University Faculty of Nursing

Keywords : Assistant professor, University school of nursing, Qualification

〈研究報告〉

高血圧者へのヘルスプロモーション行動促進のための 看護介入プログラムの開発と試行

菊池和子¹⁾, 兼松百合子²⁾, 土屋陽子¹⁾, 千葉澄子³⁾, 佐々木悠美³⁾, 安藤里恵¹⁾, 齋藤貴子¹⁾,
石井真紀子¹⁾, 野口恭子¹⁾, 工藤朋子¹⁾, 坪山美智子²⁾, 荻野大介²⁾, 安保寛明⁴⁾

1) 岩手県立大学看護学部 2) 元岩手県立大学看護学部
3) 滝沢村役場 4) 東北福祉大学健康科学部保健看護学科

要 旨

UNCW看護学部の教員と両地域における高血圧者を対象としたヘルスプロモーション行動、血圧値、スピリチュアリティ等の研究結果から、スピリチュアリティ、運動、ストレスマネジメントへの働きかけを中心とする高血圧者へのヘルスプロモーション行動促進のための看護介入プログラム(以下プログラムとする)を開発し、その有用性を検討した。プログラムの内容は、HPLPII質問紙をプログラム開始時と終了時に記載。血圧を自分で測定し、記録。ライフコーダを装着。血圧値と歩数を示すグラフを見ながらの1カ月毎の個別面接を行い6カ月間続ける。面接者はスピリチュアリティへの介入の姿勢で面接する。参加者同士の交流等、である。

プログラムへの参加者は13名で、全員がプログラムを終了した。収縮期血圧、拡張期血圧の平均値は、プログラム終了時に有意に低下、身体活動量(歩数)は、有意に増加し、質問紙では、有意に「精神成長」、「身体運動」が高く、「ストレスマネジメント」の平均値は若干上昇し、プログラムが有用であったと考えられる。

キーワード;高血圧, ヘルスプロモーション行動, スピリチュアリティ, 運動, ストレスマネジメント

(2009年10月30日受付, 2009年12月16日受理)

<Research Report>

Development and a Trial of an Intervention Program to Improve Health Promoting Behaviors of Patients with Hypertension

Kazuko Kikuchi¹⁾, Yuriko Kanematsu²⁾, Yoko Tsuchiya¹⁾, Sumiko Chiba³⁾, Yumi Sasaki³⁾,
Rie Ando¹⁾, Takako Saito¹⁾, Makiko Ishii¹⁾, Kyoko Noguchi¹⁾, Tomoko Kudo¹⁾,
Michiko Tsuboyama²⁾, Daisuke Ogino²⁾, Hiroaki Ambo⁴⁾

1) Iwate Prefectural University Faculty of Nursing 2) Former Iwate Prefectural University Faculty of Nursing
3) Takizawa Village Health Office 4) Tohoku Fukushi University

Abstract

The purposes of this study were to develop an intervention program to improve health promoting behaviors of patients with hypertension, and to examine the usefulness of the program. It was constructed using the results of our past collaborative research with the faculty of the University of North Carolina Wilmington School of Nursing. It consisted of a health promoting lifestyle profile II questionnaire (HPLP II), self-monitoring of blood pressure and physical activity, individual and group interview and providing food models and booklets on blood pressure control. Monthly meetings for 6 months and a follow-up meeting at 3 months after completion were conducted for 13 participants who volunteered and consented.

The blood pressure of the 13 participants decreased significantly from the first stage to the last stage ($p<0.05$). The average number of steps of the 13 participants increased significantly between the first stage and the 2nd through last stage ($p<0.01$). The total score of HPLP II, scores of physical activity and spiritual growth subscales increased significantly between the first stage and the last stage ($p<0.01$). The responses at the follow-up interview were: "Enjoyed using pedometer to identify what I did today", "Tried hard at the task for 6 months. Walked only about 6~7000 steps to avoid weight on hips and knees", "Blood pressure varies when I have a cold", "Feeling blue, but obtained useful data of my exercise. Alcohol increases BP", "Useful for my health maintenance", and others.

These findings indicate the usefulness of this intervention program, and this study should be continued to obtain more substantial evidence for improving blood pressure control and health promoting lifestyle.

Keywords : hypertension, health promoting behavior, spirituality, exercise, stress management

会 告

第3回岩手看護学会学術集会

期日 平成22年10月16日（土）

会場 いわて県民情報交流センター（アイーナ）

会長 三浦まゆみ（岩手県立大学看護学部）

岩手看護学会
理事長 武田利明

平成 21 年度第 2 回岩手看護学会理事会議事録

日時:平成 21 年 8 月 1 日(土) 9:30~12:30

場所:アイーナ7階岩手県立大学アイーナキャンパス学習室 2

出席者:浅沼優子, 稲葉文香, 小山奈都子, 兼松百合子, 菊池和子, 佐々木典子, 武田利明, 平野昭彦,
三浦まゆみ 以上 9 名

欠席者:安藤広子, 井上都之, 小山ゆかり, 白畑範子(監事), 稲葉洋子(監事) 以上 5 名

(五十音順, 敬称略)

配布資料

資料 1:平成 22 年度事業計画(案)

資料 2:平成 22 年度予算(案)

資料 3:評議員会次第(案)

資料 4:総会次第(案)

追加資料:平成 21 年度岩手看護学会評議員選挙結果報告書

追加資料:退会希望者, 入会希望者名簿

追加資料:被選挙人名簿

追加資料:岩手看護学会誌投稿規則会提案

追加資料:岩手看護学会誌投稿論文チェックリスト

1. 開会(司会:武田理事長)

出席者 9 名, 委任状提出 2 名あり, 理事会は成立することが確認された。

2. 理事長挨拶

武田理事長より挨拶があった。

3. 議事

1) 審議事項

(1) 評議員選挙結果について

高橋選挙管理委員長より選挙結果の報告があった(追加資料)。10 名について審議し, 承認された。

(2) 理事会推薦評議員の選出について

理事会推薦の評議員について, 評議員選出規定の第 3 条, 第 4 条の要件について検討した。現在 21 年度会費を納入しているのは 111 名である。規定の期日を超過しているが, 5 月以降に年会費を支払っている会員も多くいるため, 推薦者として認めてもよいのではないかと, 被選挙人名簿のみからの推薦では, 偏りが生じる可能性があるため会の発展を考えると推薦枠を広げてよいのではないかと意見があった。これらを審議した結果, 会員継続の意思があると考えられる被選挙人名簿掲載者を中心に推薦するが, 評議員選出規定の第 3 条, 第 4 条の要件を満たさなくても理事会推薦として認めることとした。

推薦者 10 名は, 稲葉文香さん(県立大学), 畠山なを子さん(久慈病院), 木内千晶さん(県立大学), 田中千尋さん(県立高田高等学校), 村上繁子さん(南光病院), 林本郁子さん(中央病院), 三浦幸枝さん(医科大学), 稲葉洋子さん(県央保健所), 菊池田鶴子さん(沼宮内病院), 浅沼優子さん(県立大学)とし, 田口美喜子さん(県立大学), 蛸崎奈津子さん(県立大学), 木村怜さん(南光病院)も次点推薦として考慮することとした。以上の推薦者については理事長が内諾をいただき, 選挙管理委員長に報告することとした。その後, 10 月の評議員会の前までに評議員の中から理事・監事選出選挙を行うこととした。

(3) 平成 22 年度事業計画

資料 1 に基づき平野理事より説明があった。学会誌の刊行は, 「目指す」から「刊行する」と修正し, すべて承認され

た。

(4)平成 22 年度予算

資料 2 に基づき菊池理事より説明があった。会員を 150 名として予算案を作成した。21 年度は選挙があったため事務費が多くなっていたが、22 年度は減額予定である。7 月 30 日現在の会計状況は残高 1,288,964 円と報告された。

また、入会が承認された会員には、はがきにて会員番号をお知らせすることとした。会費未納者への督促は、8 月に振り込み用紙を同封した書類を郵送することとした。

(5)評議員会次第

平成 22 年度予算および事業計画について、繰越金や会員数が不明確なまま立案することが非常に困難であるが、審議の結果、これまで通り提出することとした。資料 3 のとおり、承認された。

(6)総会次第

資料 4 について「定期総会」の「定期」と、「学会誌編集委員会」の「学会誌」を削除すること。また、「平成 22 年度評議員および理事」を「平成 22～平成 24 年度」と修正すること。資料 3 も同様に修正する。総会議長は、学術集会長であるが出席できないため三浦理事が代理となることで合意した。

(7)第 3 回学術集会(平成 22 年度)会長候補について

三浦理事を推薦することとした。第 4 回学術集會会長は、菊池理事を推薦することとなった。

(8)会員入退会について

退会者 7 名、入会希望者 9 名について承認された。

(9)その他

①岩手看護学会誌投稿への支援について

学会誌投稿希望者への支援については、論文投稿支援窓口を設け、菊池理事、武田理事長を担当とし随時対応することとした。投稿の体裁や英文抄録の書き方、査読への返答に困難を感じる方が多いことが分かったが、それらは編集委員会の支援の範囲であるので、あくまで投稿までの準備を支援することとした。

2)報告事項

(1)編集委員会より

兼松編集委員長より報告があった。年 2 回発行の学会誌の準備が進んでいる。第 3 巻 1 号には、原著論文 1 本、研究報告 1 本、第 1 回学術集會会長講演内容、学会記事が掲載予定であり、Online は 8 月中に発刊予定である。投稿論文チェックリストが提出された。第 2 回学術集會での支援の要望があれば対応可能である。投稿規則の改定案が提出された。訂正箇所は、1. (2)著作権の 1 部の文章削除、3. (11)論文の記述の 1 部の文章削除、附則 1. (4)の 1 部の文章削除、2. (1)3)4)を追加することとした。

英文投稿規則について作成しているが、ホームページへの掲載にあたりトップページや会則などの英文化も必要となるため、武田理事長、平野理事が検討しアダムス・トンプソン氏に依頼することとした。

(2)第 2 回学術集會企画委員会より

現在までのところ、7 題の演題申し込みがある。8 月 5 日まで演題申し込みを延期したので、周囲の方々への周知をお願いしたい。食堂は営業しないので周知をお願いしたい。

(3)庶務担当より

8 月 1 日現在の会員は 151 名である旨、平野理事より報告があった。

(文責:小山奈都子)

平成 21 年度岩手看護学会評議員会議事録

1. 日時:平成 21 年 10 月 10 日(土) 14:10～15:30
2. 場所:いわて県民情報交流センター7階岩手県立大学アイーナキャンパス学習室 5
3. 出席者:稲葉文香, 稲葉洋子, 小山奈都子, 兼松百合子, 菊池和子, 木村怜, 佐々木典子, 高橋有里,
武田利明, 箱石恵子, 畠山なを子, 平野昭彦, 三浦まゆみ 以上 13 名
委任状:安藤広子, 小山ゆかり, 角川志穂, 千葉澄子, 中下玲子 以上 5 名
欠席者:浅沼優子, 井上都之, 佐々木敬, 白畑範子 以上 4 名

(五十音順, 敬称略)

4. 配布資料
資料 1 理事会報告
資料 2 庶務報告
資料 3 平成 21 年度編集委員会活動経過報告
資料 4 平成 20 年度事業活動について
資料 5 平成 20 年度岩手看護学会収支決算報告(案)
資料 6 平成 21 年度事業計画(修正案)
資料 7 平成 21 年度岩手看護学会修正予算(案)
資料 8 平成 22 年度事業計画(案)
資料 9 平成 22 年度岩手看護学会予算(案)
資料 10 平成 22 年～平成 24 年度評議員および理事・監事(案)
追加資料 岩手看護学会誌投稿規則 改訂案
追加資料 Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines in English
5. 開会(司会:武田理事長)
出席者 13 名, 委任状提出 5 名あり, 評議員会は成立することが確認された。
6. 議事
 - 1)平成 20 年度事業活動
資料 4 に基づき平野理事より説明があり, 異議なく承認された。
 - 2)平成 20 年度収支決算(案)
資料 5 に基づき菊池理事より説明があり, 異議なく承認された。
 - 3)平成 20 年度会計監査
稲葉(洋)監事より決算報告の内容が適正であった旨が報告された。
 - 4)平成 21 年度事業計画(修正案)
資料 6 に基づき平野理事より説明があり, 異議なく承認された。
 - 5)平成 21 年度収支予算(修正案)
資料 7 に基づき菊池理事より説明があった。平成 20 年度の繰越金を学会の運営に活用する必要性が議論され, 広報活動を充実させる目的で学会ホームページの管理の業者委託を検討することとなった。「Ⅱ. 支出の部」「4. 会議費」の「旅費」を「理事会評議員会出席者旅費」などの表現に修正することで承認された。
 - 6)平成 22 年度事業計画(案)
資料 8 に基づき平野理事より説明があった。第 3 回学術集会および総会の開催の場所は, 利便性を重視し岩手県民情報センター(アイーナ)(岩手県立大学アイーナキャンパスを含む)とする旨が説明された。アイーナキャンパスにおける岩手県立大学学会開催助成金の適応について武田理事長が確認することとなった。
 - 7)平成 22 年度収支予算(案)
資料 9 に基づき菊池理事より説明があった。平成 20 年度岩手看護学会収支決算報告において第 1 回学術集会の残金がありながら学術集会開催助成金を計上する理由は, 学術集会の参加費納入以前より準備を行う

ため必要である旨が説明された。雑収入「Ⅱ. 支出の部」「4. 会議費」の「旅費」を「理事会評議員会出席者旅費」などの表現に修正することで承認された。

8)平成 22 年～平成 24 年度評議員(案)

資料 10 に基づき武田理事長より説明があり、異議なく承認された。

9)平成 22 年～平成 24 年度理事・監事(案)

資料 10 に基づき武田理事長より説明があり、異議なく承認された。

10)平成 22 年～平成 24 年度理事長および副理事長(案)

次期理事候補者の互選により武田利明氏が次期理事長候補に選出され、武田次期理事長候補は畠山なを子氏を次期副理事長候補に指名したことについて武田次期理事候補により説明があり、異議なく承認された。

11)評議員の欠員について

平野理事より、高野直子評議員の退会を受け理事会では評議員の補充をしないこととなった旨の説明があり、異議なく承認された。

12)第 3 回学術集会会長の選出について

武田理事長より、理事会は三浦理事を推薦する旨が説明され、異議なく承認された。

13)第 4 回学術集会会長の選出について

武田理事長より、理事会は菊池理事を推薦する旨が説明され、異議なく承認された。

14)学会誌投稿規則の改訂および英文投稿案内について

追加資料に基づき兼松理事より説明があり、異議なく承認された。

15)その他

総会にて平成 22 年度の評議員および理事・監事選挙結果を報告することとした。

平成 22 年度の評議員選挙において選挙人と被選挙人の人数少なかったことを踏まえ、今後の選挙では、より多くの会員が選挙へ参加できる体制の構築が必要であり、来年度に検討することとした。

総会にて次期理事長および次期副理事長の挨拶を行うこととした。

7. 報告

1)理事会より

資料 1 に基づき武田理事長より平成 20 年度および平成 21 年度に開催された理事会が報告された。

2)庶務担当より

資料 2 に基づき平野理事より平成 20 年度会員数 147 名、平成 21 年度会員数 9 月 30 日現在 166 名(内訳:看護師 88 名、保健師 41 名、養護教諭 7 名、助産師 2 名、その他 21 名)が報告された。また、学会誌に ISSN が正式に付与された旨が報告された。

3)第 2 回学術集会企画委員会より

第 2 回学術集会事務局三浦理事より事前申し込み人数が 91 名であること、学術集会抄録集を参加者へ郵送したことが報告された。

4)編集委員会より

資料 3 に基づき兼松理事より平成 21 年度の編集委員会活動経過が報告された。

5)論文投稿支援窓口担当者より

菊池理事より学会誌へ投稿希望でコメントをほしい方の相談窓口を設置する旨が報告された。窓口はホームページ上に設置し担当者の菊池理事および武田理事長の氏名を掲載することとした。窓口の案内は、平成 21 年度総会および第 2 回学術集会のめんこいセミナー後に行うこと、次号の学会誌郵送よりホームページの画面の写真を掲載しイメージしやすい内容のチラシを折り込むこととした。岩手看護学会トップページから案内のページにリンクを設定すること、案内のページにはメールのリンクを設定することが提案され検討することとなった。

(文責:稲葉文香)

平成 21 年度 岩手看護学会総会議事録

1. 日時:平成 21 年 10 月 17 日(土)12:05～12:45
2. 場所:岩手県立大学共通講義棟 講堂
3. 配布資料
 - 資料 1 理事会・評議員会報告
 - 資料 2 庶務報告
 - 資料 3 平成 20 年度事業活動について
 - 資料 4 平成 20 年度収支決算報告および会計監査報告
 - 資料 5 平成 21 年度事業計画(修正案)
 - 資料 6 平成 21 年度修正予算(案)
 - 資料 7 平成 22 年度事業計画(案)
 - 資料 8 平成 22 年度収支予算(案)
 - 資料 9 平成 22 年～平成 24 年度評議員および理事・監事選挙結果報告
 - 資料 10 学会誌投稿規則の改訂(案)
4. 開会

平野理事より, 出席者 35 名, 委任状 57 名, 合計 92 名, 現在の会員数 166 名であることから会則第 21 条 3 項に基づき学会総会が成立することが確認された。
5. 理事長挨拶

武田理事長より以下挨拶があった。

・第 2 回の学術集会を開催することができるのも会員の皆様のサポートをいただいたことによる。当学会には地方の学会ならではの役割もあり, 現場で活躍されている看護職と教育研究者が連携をとりながら実践に生かすことのできる研究を進めていきたい。
6. 議長の任命

会則第 21 条に基づき第 2 回岩手看護学会学術集会の白畑範子会長が議長となる予定であったが, 都合により代わって三浦まゆみ事務局長が議長となった。
7. 報 告
 - 1)理事会, 評議員会報告

武田理事長より資料 1 に基づき以下の報告があった。

・平成 20 年度は理事会を 3 回, 評議員会 1 回, 平成 21 年度はこれまでに理事会 2 回, 評議員会 1 回開催した。

・平成 21 年度第 1 回理事会までの議事録は学会誌に掲載した。第 2 回理事会での主な議題は, 評議員選挙結果の報告, 評議員選出であった。第 1 回評議員会での主な議題は, 活動状況の報告, 予算案, 次期理事・監事の選出, 次期理事長および副理事長の選出であった。
 - 2)庶務報告

平野理事より, 資料 2 に基づき, 平成 20 年度の会員数は 147 名, 平成 21 年度の会員数は現在 166 名であることが報告された。
 - 3)平成 21 年度事業経過報告
 - (1) 第 2 回岩手看護学会学術集会

三浦理事より, 事前申し込み者数は 96 名, 当日参加者数は現在 32 名, 計 128 名であることが報告された。
 - (2) 編集委員会

兼松理事より, 以下の報告があった。

・学会誌について第 2 巻第 2 号の冊子体および第 3 巻第 1 号の冊子体を発刊し, 第 3 巻第 2 号は 12 月

中に発刊予定である。第4巻第1号は平成22年5月～6月頃に、第4巻第2号は11月～12月頃に発刊予定であり、それぞれ3～4カ月前を目安に学会で発表した研究を積極的に投稿いただきたい。

- ・外国からの投稿が見込まれることから英文投稿規程(ホームページに掲載予定)を作成し、投稿規程を一部改定した。

- ・投稿をしやすくするために、Microsoft word 書類のバージョンの限定を削除するなど投稿規程の一部を改定した。また、編集委員会とは別に投稿支援窓口を開設する。投稿支援窓口はホームページ上に開設予定であり、活用してほしい。

5. 議 事

1)平成20年度事業活動について

武田理事長より、資料3に基づき、第1回岩手看護学会学術集会および総会の開催、評議員および理事選挙規定の制定、編集委員会の活動が報告され、異議なく承認された。

2)平成20年度収支決算および会計監査について

菊池理事より資料4に基づき報告され、白畑範子監事より適正な執行が行われたことが報告された。収支決算および会計監査について、異議なく承認された。

3)平成21年度事業計画(修正案)

武田理事長より、資料5に基づき報告された。第2巻第2号冊子体の刊行が追加されたことが説明され、異議なく承認された。

4)平成21年度収支予算(修正案)

菊池理事より、資料6に基づき、平成20年度の繰越金を記載した修正予算が説明され、異議なく承認された。

5)平成22年度事業計画(案)

武田理事長より、資料7に基づき、第3回岩手看護学会学術集会および総会の開催、学会誌の刊行が説明され、異議なく承認された。

6)平成22年度収支予算(案)

菊池理事より、資料8に基づき、見込みが立たない繰越金は空欄として説明され、異議なく承認された。

7)平成22年～平成24年度評議員(案)

高橋有里選挙管理委員長より資料9-1に基づき評議員選挙結果が報告され、武田理事長より資料9-2に基づき理事会推薦の評議員が説明され、ともに異議なく承認された。

8)平成22年～平成24年度理事・監事(案)

高橋有里選挙管理委員長より資料9-3に基づき理事・監事選挙結果が報告され、異議なく承認された。

9)平成22年～平成24年度理事長および副理事長(案)

平野理事より、会則第9条に基づき次期理事の互選により武田利明氏(岩手県立大学看護学部)を理事長に選出されたこと、武田次期理事長より、畠山なを子氏(岩手県立久慈病院)が副理事長に指名されたことが説明された。異議なく承認され、挨拶があった。

武田次期理事長より、若い学会であり県内での認知度は低く広報活動や委員会活動に力を入れて発展させた旨の挨拶があった。畠山次期副理事長より、臨床の場から1人でも多く会員を増やしていきたい旨の挨拶があった。

10)評議員の欠員について

平野理事より、高野直子評議員から辞任の申し出があったことが述べられ、任期の残りが半年と短いことから欠員とすることが説明され、異議なく承認された。

11)第3回学術集会会長の選出

武田理事長より、学会の充実を図るために第4回学術集会までは岩手県立大学教員の会長が望ましいと考えことから三浦まゆみ氏(岩手県立大学看護学部)の推薦があり、異議なく承認された。

12)第4回学術集会会長の選出

武田理事長より菊池和子氏(岩手県立大学看護学部)の推薦があり、異議なく承認された。

13)その他

質疑はなく、議事は終了した。

6. 第3回学術集会会長挨拶

三浦まゆみ氏(岩手県立大学看護学部)より、平成22年10月16日(土)に利便性の高いアイーナで行う。一人でも多くの参加をめざし、看護の原点を中心とした企画を考えていきたいとの挨拶があった。

7. 閉会

(文責 稲葉文香)

平成 21 年度総会次第

日時:平成 21 年 10 月 17 日(土)12:00～12:30

場所:岩手県立大学共通講義棟 講堂

配布資料:理事会、評議員会報告(資料 1)

庶務報告(資料 2)

平成 20 年度事業活動について(資料 3)

平成 20 年度収支決算報告および会計監査報告(資料 4)

平成 21 年度事業計画(修正案)(資料 5)

平成 21 年度修正予算(案)(資料 6)

平成 22 年度事業計画(案)(資料 7)

平成 22 年度収支予算(案)(資料 8)

平成 22 年～平成 24 年度評議員および理事・監事選挙結果報告(資料 9)

学会誌投稿規則の改訂(案)(資料 10)

1. 開会
2. 理事長挨拶
3. 議長:三浦まゆみ理事
4. 報 告
 - 1)理事会、評議員会報告
 - 2)庶務報告
 - 3)平成 21 年度事業経過報告
 - (1)第 2 回岩手看護学会学術集会について
 - (2)編集委員会
5. 議 事
 - 1)平成 20 年度事業活動について
 - 2)平成 20 年度収支決算および会計監査について
 - 3)平成 21 年度事業計画(修正案)
 - 4)平成 21 年度収支予算(修正案)
 - 5)平成 22 年度事業計画(案)
 - 6)平成 22 年度収支予算(案)
 - 7)平成 22 年～平成 24 年度評議員(案)
 - 8)平成 22 年～平成 24 年度理事・監事(案)
 - 9)平成 22 年～平成 24 年度理事長および副理事長(案)
 - 10)評議員の欠員について
 - 11)第 3 回学術集会会長の選出について
 - 12)第 4 回学術集会会長の選出について
 - 13)その他
6. 第 3 回学術集会会長挨拶
7. 閉会

理事会・評議員会報告

平成 20 年度

1) 理事会

第 1 回理事会(議事録は学会誌第 1 巻第 1 号に掲載)

第 2 回理事会(議事録は学会誌第 2 巻第 2 号に掲載)

第 3 回理事会(議事録は学会誌第 2 巻第 2 号に掲載)

2) 評議員会(議事録は学会誌第 2 巻第 2 号に掲載)

平成 21 年度

1) 理事会

第 1 回理事会(議事録は学会誌第 3 巻第 1 号に掲載)

1. 日時:平成 21 年 4 月 26 日(日)10:00～12:00

2. 場所:いわて県民情報交流センター7 階 学習室 1

3. 審議事項

1) 平成 20 年度事業活動報告(案)

- ・ 庶務より
- ・ 編集委員会より
- ・ 第 1 回学術集会

2) 平成 20 年度収支決算報告(案)

3) 平成 20 年度会計監査報告

4) 平成 21 年度事業計画(修正案)について

5) 平成 21 年度収支予算(修正案)について

6) 第 3 回学術集会(平成 22 年度)会長候補者について

7) 会員入退会について

第 2 回理事会

1. 日時:平成 21 年 8 月 1 日(日)9:30～12:00

2. 場所:いわて県民情報交流センター7 階 学習室 2

3. 審議事項

1) 評議員選挙結果について(選挙管理委員会からの報告)

2) 理事会指名評議員の選出

3) 平成 22 年度事業計画(案)

4) 平成 22 年度予算(案)

5) 評議員会次第(案)

6) 総会次第(案)

7) 第 3 回学術集会(平成 22 年度)会長候補者について

8) 第 4 回学術集会(平成 23 年度)会長候補者について

9) 会員入退会について

2) 評議員会

1. 日時:平成 21 年 10 月 10 日(土)14:00～16:00

2. 場所:いわて県民情報交流センター7 階 学習室 5

3. 審議事項

- 1) 平成 20 年度事業活動について
- 2) 平成 20 年度収支決算および平成 20 年度会計監査について
- 3) 平成 21 年度事業計画(修正案)
- 4) 平成 21 年度収支予算(修正案)
- 5) 平成 22 年度事業計画(案)
- 6) 平成 22 年度収支予算(案)
- 7) 平成 22 年～平成 24 年度評議員(案)
- 8) 平成 22 年～平成 24 年度理事・監事(案)
- 9) 平成 22 年～平成 24 年度理事長および副理事長(案)
- 10) 評議員の欠員について
- 11) 第 3 回学術集会会長の選出について
- 12) 第 4 回学術集会会長の選出について
- 13) 学会誌投稿規則の改訂について

庶務報告

会員数

1. 平成 20 年度

平成 19 年度会員数	72 人
平成 20 年度新規入会者数	75 人
平成 20 年度退会者数	1 人
平成 20 年度合計	147 人

2. 平成 21 年度(平成 21 年 9 月 30 日現在)

平成 20 年度会員数	147 人
平成 21 年度新規入会者数	35 人
平成 21 年度退会者数	16 人
平成 21 年度合計	166 人

平成 20 年度 事業活動について

1. 第 1 回学術集会開催

期日:平成 20 年 10 月 4 日

会場:岩手県立大学

会長:武田利明

メインテーマ:いわてから新たな看護の発信

参加者総数 190 名。

内訳 会員 81 名、非会員 92 名、学生 17 名。

2. 総会開催

期日:平成 20 年 10 月 4 日

会場:岩手県立大学

出席者 34 名、委任状 54 名、合計 88 名、現在の会員数 137 名。

3. 評議員および理事選挙規定の制定

総会において承認され制定された。

4. 編集委員会

岩手看護学会誌第 2 巻第 1 号を刊行。第 2 巻第 2 号は電子体を発行。

岩手県立大学開学 10 周年記念事業・平成 20 年度看護学部公開講座ランチョンセミナーにおいて、編集委員主催「岩手看護学会論文投稿および学会発表のためのワークショップ」を開催。

平成 20 年度岩手看護学会収支決算報告（案）

I. 収入の部

（単位：円）

費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1. 会費	500,000	700,000	200,000	20 年度会費 5,000 円×140 人 19 年度入会 64 人 20 年度入会 76 人
2. 雑収入	0	234,290	234,290	第 1 回 学 術 集 会 残 金 223,595 円、学会誌販売他
3. 繰越金	386,667	386,667	0	
合 計	886,667	1,320,957	434,290	

II. 支出の部

（単位：円）

費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1.編集委員会 活動費	579,600	206,875	372,725	学会誌発行 1 回（168,000 円×1 回）、英文タイトル校 閲謝礼（5,000 円×1 回） 編集委員会（旅費 33,875 円 ×1 回）
2.学術集会開催 助成費	50,000	50,000	0	第 1 回学術集会への助成費
3.事務費	30,000	0	30,000	
4.会議費	30,000	2,272	27,728	茶菓代 2,272 円
5.通信費	85,000	67,545	17,455	学会誌等郵送料（前年度郵 送料を含む）34,735 円、切 手代他送料 32,810 円
6.アルバイト代	50,000	8,000	42,000	郵送作業
7.予備費	62,067	0	62,067	
合 計	886,667	334,692	551,975	

III. 差引残額

（収入合計額）1,320,957 円－（支出合計額）334,692 円＝（残金）986,265 円

残金 986,265 円は、次年度へ繰り越します。

上記のとおり適正に処理されていることを認める。

平成 21 年 4 月 10 日

監事 白畑 範子

稲葉 洋子



平成 21 年度 事業計画(修正案)

* 修正案では下線部を追加した。

事業計画	修 正 案
1. 第 2 回学術集会の開催 期日:平成 21 年 10 月 17 日(土) 学会長:白畑範子(岩手県立大学看護学部) 2. 総会の開催 日時:平成 21 年 10 月 17 日(土) 3. 学会誌の刊行 第 3 巻第 1 号と第 2 号の刊行。 4. 平成 22 年度の評議員および理事・監事選挙 平成 21 年 6 月頃に評議員および理事・監事の選挙を実施する。	1. 第 2 回学術集会の開催 期日:平成 21 年 10 月 17 日(土) 学会長:白畑範子(岩手県立大学看護学部) 2. 総会の開催 日時:平成 21 年 10 月 17 日(土) 3. 学会誌の刊行 第2 巻第 2 号冊子体の刊行(平成 20 年度の刊行が平成 21 年度となったため)。 第 3 巻第 1 号と第 2 号の刊行。 4. 平成 22 年度の評議員および理事・監事選挙 平成 21 年 6 月頃に評議員および理事・監事の選挙を実施する。

平成 21 年度岩手看護学会修正予算

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

I. 収入の部

(単位:円)

費 目	平成 20 年度 決算額	平成 21 年度 予算額	平成 21 年度 修正予算額	備 考
1. 会費	700,000	750,000	750,000	5,000 円×150 人
2. 雑収入	234,290	0	0	
3. 繰越金	386,667		986,265	
合 計	1,320,957		1,736,265	

II. 支出の部

(単位:円)

費 目	平成 20 年度 決算額	平成 21 年度 予算額	平成 21 年度 修正予算額	備 考
1.編集委員会 活動費	206,875	639,400	850,400	学会誌発行 3 回(200,000 円 ×3 回)、英文タイトル校閲 10,000 円×2 回、英文投稿に 関する書類の翻訳 80,000 円、ホームページ SSL 証明書 発行 13,000 円 編集委員会(旅費 26,000 円 ×3 回, 10,000 円×3 回、駐 車料金 600 円×8 人×3 回、 弁当代 5,000 円×3 回)
2.学術集会開催 助成費	50,000	50,000	50,000	
3.事務費	0	30,000	90,000	評議員選挙封筒印刷他
4.会議費	2,272	70,000	140,000	理事会、評議員会他旅費、 茶菓代 10,000 円
5.通信費	67,545	100,000	125,000	学会誌等郵送料 25,000 円× 3 回、評議員選挙等郵送料 50,000 円
6.アルバイト代	8,000	50,000	50,000	郵送作業他
7.予備費	0		430,865	
合 計	334,692	* 939,400	1,736,265	

注: 平成 21 年度予算額について

- ・会費は、会員が 150 人と想定して算出した。
- ・*は予備費以外の合計額である。
- ・額が空白の箇所は金額が予測できないため空白としている。

平成 22 年度 事業計画

1. 第 3 回学術集会の開催

期日:平成 22 年 10 月 16 日(土)

場所:いわて県民情報交流センター(アイーナ)

2. 総会の開催

期日:平成 22 年 10 月 16 日(土)

場所:いわて県民情報交流センター(アイーナ)

3. 学会誌の刊行

年 2 回の刊行。

平成 22 年度岩手看護学会予算

(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

I. 収入の部

(単位:円)

費 目	平成 22 年度 予算額	平成 21 年度 修正予算額	増 減	備 考
1. 会費	750,000	750,000	0	5,000 円×150 人
2. 雑収入	0	0	0	
3. 繰越金		986,265		
合 計		1,736,265		

II. 支出の部

(単位:円)

費 目	平成 22 年度 予算額	平成 21 年度 修正予算額	増 減	備 考
1.編集委員会 活動費	684,400	850,400	△166,000	学会誌発行 2 回(250,000 円 ×2 回)、英文タイトル校閲 10,000 円×2 回 編集委員会(旅費 35,000 円 ×3 回、10,000 円×3 回、駐 車料金 600 円×8 人×3 回、 弁当代 5,000 円×3 回)
2.学術集会開催 助成費	50,000	50,000	0	
3.事務費	30,000	90,000	△60,000	事務用品
4.会議費	185,000	140,000	45,000	理事会、評議員会他旅費、 茶菓代 10,000 円
5.通信費	100,000	125,000	△25,000	学会誌等郵送料 25,000×2 回他
6.アルバイト代	50,000	50,000	0	郵送作業他
7.予備費		430,865		
合 計	*1,099,400	1,736,265		

注: 会費は、会員が 150 人と想定して算出した。

*は予備費以外の合計額である。

額が空白の箇所は金額が予測できないため空白としている。

平成 21 年度岩手看護学会評議員選挙結果報告書

現評議員の平成 22 年 3 月 31 日付の任期満了に伴い、学会会則第 11 条の評議員選出規定にもとづき行った選挙結果について、下記のように報告いたします。

記

1. 選挙人：69 名（うち被選挙人：41 名）
2. 投票数： 41 通（投票率 59.4 %）
3. 有効投票数： 39（有効投票率 95.1 %）

無効の内容： 密封用封筒に記名があったもの 1 通
定数を超えて○印があったもの 1 通

4. 開票日：平成 21 年 7 月 25 日
5. 開票開始時刻：15:07
6. 開票終了時刻：15:42
7. 開票結果

新評議員（五十音順）

- ・ 安藤 広子（岩手県立大学）
- ・ 小山奈都子（岩手県立大学）
- ・ 兼松百合子（元岩手県立大学）
- ・ 菊池 和子（岩手県立大学）
- ・ 工藤 朋子（岩手県立大学）
- ・ 白畑 範子（岩手県立大学）
- ・ 武田 利明（岩手県立大学）
- ・ 箱石 恵子（岩手県立中央病院）
- ・ 平野 昭彦（岩手県立大学）
- ・ 三浦まゆみ（岩手県立大学）

以上

上記、選挙結果に相違がないことを認めます。

平成 21 年 7 月 25 日

岩手看護学会選挙管理委員

委員長 高橋 有里

委員 角川 志穂

委員 中下 玲子



平成 22 年度～平成 24 年度 理事会推薦の評議員

- ・浅沼 優子（岩手県立大学）
- ・稲葉 文香（岩手県立大学）
- ・稲葉 洋子（岩手県県央保健所）
- ・菊池 田鶴子（岩手県立沼宮内病院）
- ・木内 千晶（岩手県立大学）
- ・田中 千尋（岩手県立高田高等学校）
- ・林本 郁子（岩手県立中央病院）
- ・三浦 幸枝（岩手医科大学附属病院）
- ・村上 繁子（岩手県立南光病院）
- ・畠山 なを子（岩手県立久慈病院）

平成 21 年度岩手看護学会理事・監事選挙結果報告書

現理事・監事の平成 22 年 3 月 31 日付の任期満了に伴い、学会会則第 11 条の理事・監事選出規定にもとづき行った選挙結果について、下記のように報告いたします。

記

1. 選挙人：20 名（被選挙人：20 名）
2. 投票数： 15 通（投票率 75.0 %）
3. 有効投票数： 14（有効投票率 93.3 %）

無効の内容： 評議員選挙投票用紙を用いたもの 1 通

4. 開票日：平成 21 年 9 月 19 日
5. 開票開始時刻：13:30
6. 開票終了時刻：13:45
7. 開票結果

- 新理事（五十音順）
- ・ 浅沼 優子（岩手県立大学）
 - ・ 稲葉 文香（岩手県立大学）
 - ・ 小山 奈都子（岩手県立大学）
 - ・ 兼松 百合子（元岩手県立大学）
 - ・ 菊池 和子（岩手県立大学）
 - ・ 木内 千晶（岩手県立大学）
 - ・ 工藤 朋子（岩手県立大学）
 - ・ 白畑 範子（岩手県立大学）
 - ・ 武田 利明（岩手県立大学）
 - ・ 畠山 なを子（岩手県立久慈病院）
 - ・ 平野 昭彦（岩手県立大学）
 - ・ 三浦 まゆみ（岩手県立大学）

- 新監事（五十音順）
- ・ 安藤 広子（岩手県立大学）
 - ・ 稲葉 洋子（岩手県県央保健所）

以上

上記、選挙結果に相違がないことを認めます。

平成 21 年 9 月 19 日

岩手看護学会選挙管理委員会

委員長 高橋 有里

委員 角川 志穂

委員 中下 玲子



資料 9-3

岩手看護学会誌投稿規則

1. 総則

- (1) 本学会は、看護学における研究成果の発表を目的として、岩手看護学会誌/Journal of Iwate Society of Nursing Science を年 2 回発行する。
- (2) 刊行については、本学会が編集委員会を設置し、その任にあたる
- (3) 本雑誌は、オンライン(Internet)および紙媒体にて出版する。

2. 投稿規定

(1) 投稿資格

- 1) 筆頭執筆者は本学会の会員とする。
- 2) 本学会が依頼した場合には前項の限りではない。
- 3) 日本以外の国から投稿する者については会員以外でも投稿資格を有するものとする。
- 4) その他の投稿者については編集委員会が決定する。

(2) 著作権

本誌掲載論文の著作権は本学会に帰属する。

投稿者は、版權の利用に当たって、本規則の附則に従う。

(3) 論文の種類

本誌に掲載する論文は、総説、原著、事例報告、研究報告、短報、その他とし、論文として未発表のものとする。審査の段階で編集委員会が論文の種類の変更を指示することがある。

・ 総説

看護学に関わる特定のテーマについての知見を集め、文献等をレビューし、総合的に学問的状況を概説したもの。

・ 原著

看護学に関わる研究論文のうち、研究そのものに独創性があり、新しい知見を含めて体系的に研究成果が記述されており、看護学の知識として意義が明らかであるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ 事例報告

臨床看護上貴重な臨床実践例の報告で、臨床看護実践または看護学上の有益な資料となるもの。

・ 研究報告

看護学に関わる研究論文のうち、研究成果の意義が大きく、看護学の発展に寄与すると認められるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ 短報

看護学に関わる研究論文のうち、新しい知識が含まれており、看護学の発展に寄与することが期待できるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

・ その他(論壇等)

看護学に関わる論文。

(4) 論文の提出

論文は編集委員会の指示に従って提出する。

(5) 論文の採否

投稿論文の採否の決定は、査読を経て編集委員会が行う。査読者は編集委員会が依頼する。原則として査読者は 2 名とする。査読者間の意見の相違がある場合は編集委員会が別の 1 名に査読を依頼することができる。査読は別途定める査読基準ならびに査読ガイドラインに従って行う。

投稿論文の審査過程において、編集委員会からの修正等の要望に対し 3 か月以上著者からの回答がなかった場

合には自動的に不採用とする。

(6) 編集

論文の掲載順序その他編集に関することは、編集委員会が行う。

(7) 校正

初校は著者校正とする。著者校正は原則として字句の訂正に留めるものとする。再校以後は編集委員会にて行う。

(8) 別刷り

50 部単位で著者校正時に申請する。別刷りにかかる費用は著者の負担とする。

(9) 倫理的配慮

人及び動物が対象とされる研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。具体的には下記の倫理基準を満たしていること。また、原則として研究倫理審査委員会の審査をうけていること。

- ・ 人体を対象とした研究では、「ヘルシンキ宣言」に従うこと。
- ・ 動物を対象とした研究では、「岩手県立大学動物実験倫理規定」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ 調査研究については、「疫学研究に関する倫理指針」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ ヒトゲノム・遺伝子解析を対象とした研究は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」および「遺伝子治療臨床研究に関する指針」または、これと同等水準の倫理基準を満たしていること。

(10) 投稿手続き

- ・ 投稿申込を岩手看護学会ホームページ投稿案内 (<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>) より行う。申込の際は論文の種類、タイトル、執筆者の氏名、電子メールアドレス、会員番号、連絡先住所および郵便番号を明記する。
- ・ ホームページ中の投稿チェックリストに記載する。
- ・ 編集委員会の指示に従って e-mail に添付して論文を投稿する。
- ・ 編集委員会が、投稿論文が投稿規則にしたがっていることを確認した時点で投稿手続きが終了し、この日をもって受付日とする。また、査読を経て、編集委員会が雑誌掲載を許可した日をもって受理日とする。
- ・ 採用された論文の掲載に研究倫理審査書、共同研究者同意書等が必要とされた場合には、論文受理通知後 2 週間以内に編集委員会宛てにそれらの書類を提出すること。
- ・ 著者は受理日以降であれば、論文掲載証明を請求することが出来る。

(11) 掲載料

掲載料は無料とする。ただし、カラー写真掲載に関する費用は実費負担とする。

3. 執筆要領

(1) 論文の記述

- 1) 論文原稿は、和文または欧文(原則として英文)とし、A4 サイズの頁設定を用い、Microsoft Word 書類とする。
- 2) 論文の分量は、表題、要旨、本文、引用文献等全てを含め、組み上がり頁数で以下の規定以内とする。
 - ・ 総説: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)
 - ・ 原著: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)
 - ・ 事例報告: 6 頁(本文と引用文献(図表含む)で 10,000 字相当)
 - ・ 研究報告: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)
 - ・ 短報: 4 頁(本文と引用文献(図表含む)で 7,000 字相当)
 - ・ その他(論壇等): 内容により編集委員会が決定する。
- 3) 和文原稿は、原則として現代かなづかい、JIS 第 2 水準までの漢字を用いる。外国の人名、地名、術語は原語のまま表記する。学術的に斜字体で表記されている術語は斜字体で表記する。単位および単位記号は、原則として SI 単位系に従うものとする。和文原稿の句読点はピリオド及びカンマとする。

- 4) 論文は、表題、著者名、所属、要旨、本文、引用文献、表題(英文)、著者名(英文)、所属(英文)、Abstract(英文要旨)の順に作成する。本文が欧文である場合には、表題以下の英文部分から始め、和文の表題、著者名、所属、要旨を順に最後に記載する。
- 5) 論文(その他を除く)には 400 字程度の和文要旨をつけ、原著については 250 語程度の Abstract(英文)もつける。原著以外の論文に Abstract をつけてもよい。
- 6) 欧文(英文 Abstract を含む)は原則として Native Check を受けたものとする。
- 7) 5語以内のキーワード(和文および英文それぞれ)をつける。
- 8) 文書フォーマットは下記のものとする(編集委員会が指定する投稿論文テンプレートを用いる)。
 - ・ 本文および引用文献は 2 段組み、24 文字×44 行、文字は 10 ポイント、その他は 1 段組みとする。
 - ・ 文書余白は上下 25mm、左右 20mm とする。なお余白部分は編集委員会が頁数、書誌事項、受付日、受理日の表示のために利用する。
 - ・ 本文和文書体は MS-P 明朝、見出しは MS-P ゴシック(11 ポイント)を用いる。本文欧文書体は Times New Roman を用いる。
 - ・ 上付き、下付き文字は MS-P 明朝を用い、Microsoft Word の機能を用いて作成する。
 - ・ 要旨及び Abstract は、左右 15mm インデントする。
- 9) 丸付き数字、ローマ数字等の機種依存文字は使用しない。
- 10) その他、文書の形式、書式等は原則として投稿論文テンプレートに従う。

(2) 図表の掲載

- 1) 図表は、1 段(7.5cm 幅)あるいは 2 段(16.5cm 幅)のサイズで本文中に掲載する。
- 2) 図表中の表題、説明文等の文字は MS-P ゴシック 6 または 8 ポイントとする。
- 3) 図は原則として jpg, gif あるいは png フォーマットにより作成する。写真も同様とする。Microsoft Excel または PowerPoint から直接貼り付けることも認める。
- 4) 表は Microsoft Excel により作成し、本文中に貼り付ける。
- 5) 図には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「図.1 表題」と図の直下に中央揃えにて記載する。
- 6) 表には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「表.1 表題」と表の直上に左寄せにて記載する。

(3) 文献の記載

引用文献の記述形式は「生物医学雑誌に関する統一規定 Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals」(‘Vancouver’ style)に準ずる。

- 1) 文献を引用する場合は、本文の引用箇所の肩に上付き文字で 1)-2)のように表し、最後一括して引用順に掲げる。
- 2) 記載の様式は下記のようにする。
 - ・ 雑誌の場合……著者名. 表題名. 雑誌名 年次;巻(号):頁.
なお、頁は数字のみ。雑誌名は和雑誌は医学中央雑誌、洋雑誌は MEDLINE に従い省略形を用いる、それらに掲載されていないものは正式名称を用いる。
 - ・ 単行本の場合……著者名.書名.版.発行地:発行所;年次.または、著者名.書名.版.編集者名.発行地:発行所; 年次. 頁. なお、頁は数字のみ。
 - ・ 訳本の場合……著者名. 書名. 版. 翻訳者名. 発行地: 発行所; 年次. 頁.
 - ・ 新聞記事の場合……著者名. 記事タイトル(コーナー名). 新聞名(地域版の場合にはその名称,版,朝夕刊の別). 掲載年月日;欄:位置(段). なお、著者名のない場合は省略して良い。
 - ・ ホームページの場合……著者名. タイトル: サブタイトル[インターネット]. 発行元: 発行者; 発行年月日[更新年月日]. URL. (原則として、公的機関等のサイトにおいて情報が継続して同じ URL 上にあることが確実であるような場合のみ引用することが出来る。)
- 3) 著者名の記載については下記の例に従う。

- ・ 和文の場合……5 名以下のときは全員の姓名, 6 名以上のときは, 筆頭から 5 名の姓名の後に「, 他」をつける.
- ・ 欧文の場合……5 名以下のときは姓, 名のイニシャル, 6 名以上の時は 5 名までの姓, 名のイニシャルに「,et al.」をつける.

4) 書体は本文に準じる.

(4) 英文投稿は本規則のほか Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines を参照すること.

附則 1. 著作権について

- (1) 学会誌掲載内容(学会ホームページ上で公開する電子媒体を含む)の著作権は, 全て学会に帰属する.
- (2) 学会誌内で掲載されている図表など原著性の高い内容を他の雑誌や書籍刊行物にて使用する際には, 学会誌編集委員長に対して必ず書状にて許諾申請を行うものとする. 許諾は編集委員会宛て郵送にて申請する(電子メールでの申請は受け付けない).
- (3) 前項の許諾申請は 1. 引用する学会誌の論文の号・巻・頁・年度・タイトル・筆頭著者名・使用したい図表等の掲載頁とその図表番号, 2. 利用目的, 3. 依頼者住所・氏名・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレスを明記し, 自著署名を付して申請すること.

(4) 使用許可のおりた図表等の利用に関しては脚注に(あるいは参考文献として)原著を引用文献として明示すること.

附則 2. 本規則の適用期間

本規則は平成 19 年 6 月 23 日より発効する.

附則 3. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 20 年 10 月 4 日から施行する.

附則 4. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 21 年 10 月 17 日から施行する.

岩手看護学会会則

第一章 総則

第1条 本会は、岩手看護学会 (Iwate Society of Nursing Science) と称す。

第2条 本会の事務局を、岩手県立大学看護学部内 (〒020-0193 岩手県滝沢村滝沢字巣子 152-52) に置く。

第3条 本会は、看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする。

第4条 本会は、第3条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 学術集会の開催
- (2) 学会誌の発行
- (3) その他本会の目的達成に必要な事業

第二章 会員

第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同し看護を実践・研究する者ならびに看護に関心のある者で、所定の年会費を納入し、理事会の承認を得た者をいう。

第6条 本会に入会を認められた者は、所定の年会費を納入しなければならない。

第7条 会員は、次の理由によりその資格を喪失する。

- (1) 退会
- (2) 会費の滞納(2年間)
- (3) 死亡または失踪宣告
- (4) 除名

2 退会を希望する会員は、理事会へ退会届を提出しなければならない。

3 本会の名誉を傷つけ、または本会の目的に反する行為のあった会員は、評議員会の議を経て理事長が除名することができる。

第三章 役員・評議員および学術集会会長

第8条 本会に次の役員をおき、その任期は3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することはできない。

- (1) 理事長 1名
- (2) 副理事長 1名
- (3) 理事 10 数名(理事長 副理事長を含む)
- (4) 監事 2名

第9条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 理事長は、理事の互選により選出し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
- (2) 副理事長は、理事の中から理事長が指名し、評議員会の議を経て総会の承認を得る。
- (3) 理事および監事は、評議員会で評議員の中から選出し、総会の承認を得る。

第10条 役員は次の職務を行う。

- (1) 理事長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれを代行する。
- (3) 理事は、理事会を組織し、会務を執行する。
- (4) 監事は、本会の事業および会計を監査する。

第11条 本会に、評議員を置く。評議員の定数及び選出方法は、別に定める。

第12条 評議員の任期は、3年とし再任を妨げない。但し、引き続き6年を超えて在任することはできない。

第 13 条 評議員は、評議員会を組織し、この会則に定める事項のほか、に理事長の諮問に応じ、本会の運営に関する重要事項を審議する。

第 14 条 本会に、学術集会会長を置く。

第 15 条 学術集会会長は、評議員会で会員の中から選出し、総会の承認を得る。

第 16 条 学術集会会長の任期は、1 年とし再任は認めない。

第 17 条 学術集会会長は、学術集会を主宰する。

第四章 会議

第 18 条 本会に、次の会議を置く。

- (1) 理事会
- (2) 評議員会
- (3) 総会

第 19 条 理事会は、理事長が招集し、その議長となる。

2 理事会は、毎年1回以上開催する。但し、理事の3分の1以上から請求があったときは、理事長は、臨時に理事会を開催しなければならない。

3 理事会は、理事の過半数の出席をもって成立とする。

第 20 条 評議員会は、理事長が招集しその議長となる。

2 評議員会は、毎年1回開催する。但し、評議員の3分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたとき、理事長は、臨時に評議員会を開催しなければならない。

3 評議員会は、評議員の過半数の出席をもって成立とする。

第 21 条 総会は、理事長が召集し、学術集会会長が議長となる。

2 総会は、毎年1回開催する。但し、会員の5分の1以上から請求があったときおよび理事会が必要と認めたとき、理事長は、臨時に総会を開催しなければならない。

3 総会は、会員の10分の1以上の出席または委任状をもって成立とする。

第 22 条 総会は、この会則に定める事項のほか次の事項を議決する。

- (1) 事業計画および収支予算
- (2) 事業報告および収支決算
- (3) その他理事会が必要と認めた事項

第 23 条 総会における議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第五章 学術集会

第 24 条 学術集会は、毎年1回開催する。

第 25 条 学術集会会長は、学術集会の運営および演題の選定について審議するため、学術集会企画委員を委嘱し、委員会を組織する。

第六章 会誌等

第 26 条 本会は、会誌等の発行を行うため編集委員会を置く。

第七章 会計

第 27 条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日で終わる。

第八章 会則の変更

第 28 条 本会の会則を変更する場合は、理事会および評議員会の議を経て総会の承認を必要とする。

2 前項の承認は、第 23 条の規定にかかわらず出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

第九章 雑則

第 29 条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は、別に定める。

附則

この会則は、平成 19 年 6 月 23 日から施行する。

岩手看護学会 役員名簿(2009 年 12 月現在)

理事長	武田 利明	岩手県立大学
副理事長	佐々木典子	岩手県看護協会
理 事	浅沼 優子 (編集委員)	岩手県立大学
	安藤 広子	岩手県立大学
	稲葉 文香 (庶務)	岩手県立大学
	井上 都之 (編集委員)	岩手県立大学
	小山奈都子 (庶務)	岩手県立大学
	小山ゆかり (会計)	一関市立山目中学校
	兼松百合子 (編集委員長)	前岩手県立大学
	菊池 和子 (会計)	岩手県立大学
	佐々木典子 (副理事長)	岩手県看護協会
	武田 利明 (理事長)	岩手県立大学
	平野 昭彦 (庶務)	岩手県立大学
	三浦まゆみ	岩手県立大学
監 事	稲葉 洋子	岩手県県央保健所
	白畑 範子	岩手県立大学
評議員	浅沼 優子	岩手県立大学
	安藤 広子	岩手県立大学
	稲葉 文香	岩手県立大学
	稲葉 洋子	岩手県県央保健所
	井上 都之	岩手県立大学
	小山奈都子	岩手県立大学
	小山ゆかり	一関市立山目中学校
	兼松百合子	前岩手県立大学
	菊池 和子	岩手県立大学
	木村 怜	岩手県立南光病院
	佐々木 敬	岩手県立二戸病院
	佐々木典子	岩手県看護協会
	白畑 範子	岩手県立大学
	角川 志穂	自治医科大学
	武田 利明	岩手県立大学
	高橋 有里	岩手県立大学
	千葉 澄子	滝沢村
	中下 玲子 (編集委員)	岩手県教育委員会
	箱石 恵子 (編集委員)	岩手県立中央病院
	畠山なを子	岩手県立久慈病院
	平野 昭彦	岩手県立大学
	三浦まゆみ	岩手県立大学

(五十音順, 敬称略)

岩手看護学会入会手続き

本学会への入会を希望される方は、以下の要領に従ってご記入の上、入会申込書を岩手看護学会事務局までご返送ください。

1. 入会申込書に必要事項をもれなくご記入ください。記入もれがある場合には、再提出をお願いすることがあります。提出された書類は返却いたしませんのでご注意ください。
2. 入会申込書は楷書ではっきりとお書きください。
3. 「会員名簿記載の可否」欄では、どちらかに○をつけ、「項目掲載の可否」欄には記載不可の情報にレ印をお書きください。会員名簿記載が可の場合、レ印のない情報に関して会員名簿に記載いたします。
4. 入会申込書に年会費の払込金受領証(コピー)を添付し、下記事務局まで郵送してください。
 - (1) 年会費 5,000 円です。会員の種類は正会員のみです。
 - (2) 郵便局に備え付けてある郵便振替払込用紙、または当学会が作成した払込用紙にて年会費をお振り込みください。

・口座番号：02210-6-89932 ・加入者名：岩手看護学会
--

《ご注意》「払込金受領証」を必ず受け取り、受領印があることをご確認ください。

- (3) 振込手数料は入会希望者をご負担ください。
- (4) 「払込金受領証」のコピーまたは原紙を入会申込書の裏に貼付してください。
- (5) 入会申込書を封書でお送りください。

《ご注意》振り込み手続きだけでは入会申し込みは完了いたしません。

入会申込書を必ずお送りください。

5. 入会申込は、随時受け付けています。

<事務局> 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学看護学部内 岩手県看護学会事務局 平野 昭彦

FAX:019-694-2239 E-mail:iwatekango@ml.iwate-pu.ac.jp

HP:<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/nyukai/index.html>

No. (事務局記載欄)

岩手看護学会 入会申込書

岩手看護学会理事長 殿

貴会の趣旨に賛同し会員として入会いたします。

注1)性別・郵送物送付先・職種については各欄のいずれかの番号に丸をお付けください。

申込日	平成()年()月()日	
氏名	フリガナ	性別
		1. 男 2. 女
勤務先名称	フリガナ	
現在の職種 (ひとつに○)	1. 保健師 2. 助産師 3. 看護師 4. 准看護師 5. 養護教諭 6. 看護教員 7. その他()	
連絡先 (どちらかに○)	1. 勤務先 2. 自宅	
	〒	
	TEL:	
	FAX:	
	E-mail:	
最終卒業校		
実践・関心領域		
会員名簿掲載の可否 (どちらかに○)	可 ・ 不可	
項目掲載の可否 (記載不可にレ印)	☐ 勤務先名称 ☐ 連絡先住所 ☐ 連絡先 TEL ☐ 連絡先 FAX ☐ 連絡先 E-mail	

注2) 裏面に年会費払込金受領証のコピーを必ず添付してください。

添付のない場合は入会申込が無効となります。

必要事項を記入し、郵送にて下記の事務局までお送りくださいますようお願いいたします。

<事務局> 〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学 看護学部内 岩手看護学会 事務局 平野昭彦

FAX: 019-694-2239 E-mail: iwatekango@ml.iwate-pu.ac.jp

岩手看護学会誌投稿規則

1. 総則

- (1) 本学会は、看護学における研究成果の発表を目的として、岩手看護学会誌/Journal of Iwate Society of Nursing Science を年 2 回発行する。
- (2) 刊行については、本学会が編集委員会を設置し、その任にあたる
- (3) 本雑誌は、オンライン(Internet)および紙媒体にて出版する。

2. 投稿規定

(1) 投稿資格

- 1) 筆頭執筆者は本学会の会員とする。
- 2) 本学会が依頼した場合には前項の限りではない。
- 3) 日本以外の国から投稿する者については会員以外でも投稿資格を有するものとする。
- 4) その他の投稿者については編集委員会が決定する。

(2) 著作権

本誌掲載論文の著作権は本学会に帰属する。
投稿者は、版権の利用に当たって、本規則の附則に従う。

(3) 論文の種類

本誌に掲載する論文は、総説、原著、事例報告、研究報告、短報、その他とし、論文として未発表のものとする。審査の段階で編集委員会が論文の種類の変更を指示することがある。

- ・ 総説

看護学に関わる特定のテーマについての知見を集め、文献等をレビューし、総合的に学問的状況を概説したもの。

- ・ 原著

看護学に関わる研究論文のうち、研究そのものに独創性があり、新しい知見を含めて体系的に研究成果が記述されており、看護学の知識として意義が明らかであるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

- ・ 事例報告

臨床看護上貴重な臨床実践例の報告で、臨床看護実践または看護学上の有益な資料となるもの。

- ・ 研究報告

看護学に関わる研究論文のうち、研究成果の意義が大きく、看護学の発展に寄与すると認められるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

- ・ 短報

看護学に関わる研究論文のうち、新しい知識が含まれており、看護学の発展に寄与することが期待できるもの。原則として、目的、方法、結果、考察、結論の 5 段の形式で記述されたものでなければならない。

- ・ その他(論壇等)

看護学に関わる論文。

(4) 論文の提出

論文は編集委員会の指示に従って提出する。

(5) 論文の採否

投稿論文の採否の決定は、査読を経て編集委員会が行う。査読者は編集委員会が依頼する。原則として査読者は 2 名とする。査読者間の意見の相違がある場合は編集委員会が別の 1 名に査読を依頼することができる。査読は別途定める査読基準ならびに査読ガイドラインに従って行う。

投稿論文の審査過程において、編集委員会からの修正等の要望に対し 3 か月以上著者からの回答がなかった場合には自動的に不採用とする。

(6) 編集

論文の掲載順序その他編集に関することは、編集委員会が行う。

(7) 校正

初校は著者校正とする。著者校正は原則として字句の訂正に留めるものとする。再校以後は編集委員会にて行う。

(8) 別刷り

50 部単位で著者校正時に申請する。別刷りにかかる費用は著者の負担とする。

(9) 倫理的配慮

人及び動物が対象とされる研究は、倫理的に配慮され、その旨が本文中に明記されていること。具体的には下記の倫理基準を満たしていること。また、原則として研究倫理審査委員会の審査をうけていること。

- ・ 人体を対象とした研究では、「ヘルシンキ宣言」に従うこと。
- ・ 動物を対象とした研究では、「岩手県立大学動物実験倫理規定」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ 調査研究については、「疫学研究に関する倫理指針」または同等水準の倫理基準を満たしていること。
- ・ ヒトゲノム・遺伝子解析を対象とした研究は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」および「遺伝子治療臨床研究に関する指針」または、これと同等水準の倫理基準を満たしていること。

(10) 投稿手続き

- ・ 投稿申込を岩手看護学会ホームページ投稿案内 (<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>) より行う。申込の際は論文の種類、タイトル、執筆者の氏名、電子メールアドレス、会員番号、連絡先住所および郵便番号を明記する。
- ・ ホームページ中の投稿チェックリストに記載する。
- ・ 編集委員会の指示に従って e-mail に添付して論文を投稿する。
- ・ 編集委員会が、投稿論文が投稿規則にしたがっていることを確認した時点で投稿手続きが終了し、この日をもって受付日とする。また、査読を経て、編集委員会が雑誌掲載を許可した日をもって受理日とする。
- ・ 採用された論文の掲載に研究倫理審査書、共同研究者同意書等が必要とされた場合には、論文受理通知後 2 週間以内に編集委員会宛てにそれらの書類を提出すること。
- ・ 著者は受理日以降であれば、論文掲載証明を請求することが出来る。

(11) 掲載料

掲載料は無料とする。ただし、カラー写真掲載に関する費用は実費負担とする。

3. 執筆要領

(1) 論文の記述

- 1) 論文原稿は、和文または欧文(原則として英文)とし、A4 サイズの頁設定を用い、Microsoft Word 書類とする。
- 2) 論文の分量は、表題、要旨、本文、引用文献等全てを含め、組み上がり頁数で以下の規定以内とする。
 - ・ 総説: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)
 - ・ 原著: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)

- ・ 事例報告: 6 頁(本文と引用文献(図表含む)で 10,000 字相当)
 - ・ 研究報告: 12 頁(本文と引用文献(図表含む)で 20,000 字相当)
 - ・ 短報: 4 頁(本文と引用文献(図表含む)で 7,000 字相当)
 - ・ その他(論壇等): 内容により編集委員会が決定する。
- 3) 和文原稿は、原則として現代かなづかい、JIS 第 2 水準までの漢字を用いる。外国の人名、地名、術語は原語のまま表記する。学術的に斜字体で表記されている術語は斜字体で表記する。単位および単位記号は、原則として SI 単位系に従うものとする。和文原稿の句読点はピリオド及びカンマとする。
- 4) 論文は、表題、著者名、所属、要旨、本文、引用文献、表題(英文)、著者名(英文)、所属(英文)、Abstract(英文要旨)の順に作成する。本文が欧文である場合には、表題以下の英文部分から始め、和文の表題、著者名、所属、要旨を順に最後に記載する。
- 5) 論文(その他を除く)には 400 字程度の和文要旨をつけ、原著については 250 語程度の Abstract(英文)もつける。原著以外の論文に Abstract をつけてもよい。
- 6) 欧文(英文 Abstract を含む)は原則として Native Check を受けたものとする。
- 7) 5語以内のキーワード(和文および英文それぞれ)をつける。
- 8) 文書フォーマットは下記のものとする(編集委員会が指定する投稿論文テンプレートを用いる)。
- ・ 本文および引用文献は 2 段組み、24 文字×44 行、文字は 10 ポイント、その他は 1 段組みとする。
 - ・ 文書余白は上下 25mm、左右 20mm とする。なお余白部分は編集委員会が頁数、書誌事項、受付日、受理日の表示のために利用する。
 - ・ 本文和文書体は MS-P 明朝、見出しは MS-P ゴシック(11 ポイント)を用いる。本文欧文書体は Times New Roman を用いる。
 - ・ 上付き、下付き文字は MS-P 明朝を用い、Microsoft Word の機能を用いて作成する。
 - ・ 要旨及び Abstract は、左右 15mm インデントする。
- 9) 丸付き数字、ローマ数字等の機種依存文字は使用しない。
- 10) その他、文書の形式、書式等は原則として投稿論文テンプレートに従う。

(2) 図表の掲載

- 1) 図表は、1 段(7.5cm 幅)あるいは 2 段(16.5cm 幅)のサイズで本文中に掲載する。
- 2) 図表中の表題、説明文等の文字は MS-P ゴシック 6 または 8 ポイントとする。
- 3) 図は原則として jpg、gif あるいは png フォーマットにより作成する。写真も同様とする。Microsoft Excel または PowerPoint から直接貼り付けることも認める。
- 4) 表は Microsoft Excel により作成し、本文中に貼り付ける。
- 5) 図には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「図.1 表題」と図の直下に中央揃えにて記載する。
- 6) 表には論文内でそれぞれ通し番号を付し、表題とともに、「表.1 表題」と表の直上に左寄せにて記載する。

(3) 文献の記載

引用文献の記述形式は「生物医学雑誌に関する統一規定 Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals」(‘Vancouver’ style)に準ずる。

- 1) 文献を引用する場合は、本文の引用箇所の肩に上付き文字で 1)-2)のように表し、最後に一括して引用順に掲げる。
- 2) 記載の様式は下記のようにする。

- ・ 雑誌の場合……著者名. 表題名. 雑誌名 年次;巻(号):頁.

なお、頁は数字のみ。雑誌名は和雑誌は医学中央雑誌、洋雑誌は MEDLINE に従い省略形を用いる、それらに掲

載されていないものは正式名称を用いる。

- ・ 単行本の場合……著者名・書名・版・発行地：発行所；年次。または、著者名・書名・版・編集者名・発行地：発行所；年次・頁。

なお、頁は数字のみ。

- ・ 訳本の場合……著者名・書名・版・翻訳者名・発行地：発行所；年次・頁。
- ・ 新聞記事の場合……著者名・記事タイトル(コーナー名)・新聞名(地域版の場合にはその名称,版,朝夕刊の別)・掲載年月日；欄:位置(段)。なお、著者名のない場合は省略して良い。
- ・ ホームページの場合……著者名・タイトル・サブタイトル[インターネット]・発行元：発行者；発行年月日[更新年月日]・URL。(原則として、公的機関等のサイトにおいて情報が継続して同じ URL 上にあることが確実であるような場合のみ引用することが出来る。)

3) 著者名の記載については下記の例に従う。

- ・ 和文の場合……5 名以下のときは全員の姓名, 6 名以上のときは、筆頭から 5 名の姓名の後に「, 他」をつける。
- ・ 欧文の場合……5 名以下のときは姓, 名のイニシャル, 6 名以上の時は 5 名までの姓, 名のイニシャルに「, et al.」をつける。

4) 書体は本文に準じる。

(4) 英文投稿は本規則のほか **Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines** を参照すること。

附則 1. 著作権について

- (1) 学会誌掲載内容(学会ホームページ上で公開する電子媒体を含む)の著作権は、全て学会に帰属する。
- (2) 学会誌内で掲載されている図表など原著性の高い内容を他の雑誌や書籍刊行物にて使用する際には、学会誌編集委員長に対して必ず書状にて許諾申請を行うものとする。許諾は編集委員会宛て郵送にて申請する(電子メールでの申請は受け付けない)。
- (3) 前項の許諾申請は 1. 引用する学会誌の論文の号・巻・頁・年度・タイトル・筆頭著者名・使用したい図表等の掲載頁とその図表番号, 2. 利用目的, 3. 依頼者住所・氏名・電話番号・FAX 番号・電子メールアドレスを明記し、自署署名を付して申請すること。
- (4) 使用許可のおりた図表等の利用に関しては脚注に(あるいは参考文献として)原著を引用文献として明示すること。

附則 2. 本規則の適用期間

本規則は平成 19 年 6 月 23 日より発効する。

附則 3. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 20 年 10 月 4 日から施行する。

附則 4. 本規則の改訂

本規則の改訂は平成 21 年 10 月 17 日から施行する。

Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines

1. General Guidelines

- (1) The Journal of Iwate Society of Nursing Science is published by the Society two times a year for the purpose of sharing research results in nursing.
- (2) The editorial committee is established by the Society to carry out publishing responsibilities.
- (3) The journal is published online and on paper.

2. Submission Rules

(1) Qualifications for Submission

- 1) The first author listed must be a member of the Society.
- 2) Authors requested by the Society are exempt from the preceding qualification.
- 3) Authors residing outside Japan are not required to be members of the Society.
- 4) Other authors may be qualified by the editorial committee.

(2) Article Categories

Articles published in the Journal must be review articles, original articles, case reports, research reports, brief reports and others, which are unpublished. In the review process, the editorial committee may suggest a change in categories.

- Review Article

A comprehensive evaluation and discussion based on a critical review of literature concerning a specific theme in nursing.

- Original Article

A research article in nursing with originality, including new knowledge and systematically describing research results. It should contain clear significance for knowledge in nursing science. It must be presented systematically consisting of purpose, method, results, discussion and conclusion.

- Case Report

A report of a valuable clinical example of nursing. It will provide beneficial information for nursing practice and nursing science.

- Research Report

A research article in nursing with a significant research conclusion, which will be recognized as contributing to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.

- Brief Report

A short research article in nursing containing new knowledge, expected to contribute to the development of nursing science. The article must consist of purpose, method, results, discussion and conclusion.

- Other articles

Articles in nursing, such as concerning nursing issues.

(3) Article Submission

Articles are to be submitted following the instructions of the editorial committee.

(4) Review Process

The decision on submitted articles concerning acceptance for publication is carried out by the editorial committee, based on the evaluation of two anonymous reviewers at the request of the committee. If there are differences of opinion between the reviewers, an additional reviewer will be requested. The review is conducted in accordance with the reviewing standards and guidelines. If the author does not respond to the editorial committee's comments on modifications for more than three months, the article will automatically be rejected.

(5) Editing

The publication sequence of articles and other editorial issues are performed by the editorial committee.

(6) Proofs

The first proofreading will be conducted by the author. Corrections by the author will be limited to the correction of words and phrases. Further proofreading will be performed by the editorial committee.

(7) Reprints

The author may ask for reprints in blocks of 50 copies during the proofreading process. The cost will be the responsibility of the author.

(8) Ethical Considerations

Research on human subjects or animals must include a statement of ethical consideration. The ethical standards written below must be fulfilled. The research protocol must be approved by the Ethical Committee of the institution.

- Research on the human body must follow the "Helsinki Declaration".
- Research on animals must meet the ethical standards of the "Iwate Prefectural University Ethical Provisions for Animal Experiments" or other similar standards.
- Investigative research studies must meet the ethical standards of the "Ethical Guidelines on Epidemiologic Study" or similar standards.
- Research on the human genome and genetic analysis must meet the ethical standards of the "Ethical Guidelines for Human Genome and Genetic Analysis" and "Guidelines for Clinical Research on Gene Therapy" or similar standards.

(9) Submission Procedures

- Applications for submission should be made through the Iwate Society of Nursing Science web site (<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>). Applicants must write the category of the article, title, name of the author, e-mail address, membership number and postal address including postcode.
- Articles should be submitted by e-mail following the instructions of the editorial committee.
- Once the editorial committee has confirmed that the submitted articles conforms to the submission rules, the submission procedures are completed and this date is considered the

date of receipt. The date when the editorial committee accepts the article for publication, based on the reviewers' evaluation, is considered the date of acceptance.

- The author of an article accepted for publication for which a joint research agreement and ethical screening report are necessary must supply those documents to the editorial committee within two weeks of notification of acceptance of the article.
- The author may request a proof of publication for the article after the date of acceptance.

(10) Publication Costs

The costs for publication are free. However, publication costs of color photographs are the responsibility of the author.

3. Writing Guidelines

A template for manuscripts is available on the Iwate Society of Nursing Science web site (<http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/gakkaishi/tokoannai.html>). (MS Word format).

(1) Description of the Article

- 1) The submitted article is to be in Japanese or English, using A4 page settings and written in MS Word.
- 2) The length of the article, including the title, abstract, text and references must be composed within the page limits described below.
 - Review Article: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.
 - Original Article: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.
 - Case Report: 6 pages, about 3000 words including text, references, figures and tables.
 - Research Report: 12 pages, about 6000 words including text, references, figures and tables.
 - Brief Report: 4 pages, about 2000 words including text, references, figures and tables.
 - Other articles: The editorial committee will decide on the length of the article according to content.
- 3) Measurements and measurement symbols should conform to System International (SI) units.
- 4) The article should be presented in the following order: title, name of the author, affiliation, abstract, text, references.
- 5) An abstract of 250 words should be attached to articles except those categorized as Other articles.
- 6) 5 or fewer keywords should be included in all articles.
- 7) The format of the article should be as follows (using the template for articles for submission designated by the editorial committee):
 - The text and references should be two-columned, 44 lines in 10 point font and everything else should be in one column.
 - The top and bottom margins should be set at 25mm and the left and right margins should be set at 20mm. Margins will be used by the editorial committee to display page numbers, the name, volume and number of the journal and the dates of receipt and acceptance.

- The typeset for English text should be Times New Roman.
- The abstract should be indented by 15mm.

- 8) Numbers enclosed in circles, roman numerals and similar machine-dependent characters should not be used.
- 9) For other rules for the format of the article, the template for articles for submission should be followed.
- 10) If the author is Japanese, the Japanese title of the article, the name of the author in Japanese, the name of the affiliation in Japanese and an abstract in Japanese should be attached.

(2) Insertion of Diagrams

- 1) Figures and tables should be sized at 1 column (width 7.5cm) or 2 columns (width 16.5cm) and be inserted into the text.
- 2) The letters of the title and the explanation of figures and tables should be in 6 or 8 point font.
- 3) Figures should be created using jpg, gif or png formats. This also applies to photographs. Direct copying and pasting from Microsoft Excel or PowerPoint is also acceptable.
- 4) Tables should be created using Microsoft Excel and inserted into the text.
- 5) Sequential numbers should be added to each figure in the article and e.g. “Fig 1.” and the title of the figure should be centered directly below each figure.
- 6) Sequential numbers should be added to each table in the article and e.g. “Table 1.” and the title of the table should be written directly above the table to the left.

(3)Description of References

Descriptions of references should be based on the “Uniform Requirements for Manuscripts Submitted to Biomedical Journals” (i.e. ‘Vancouver style’).

- 1) When references are cited, superscript expressed as 1), 2) etc. should be added in the citation area and the citations should be listed in order at the end of the article.
- 2) The description style should be as follows:
 - Articles in journals: The name of the author. the title of the article. the title of the journal year;volume (number);pages. Pages should be in numbers.
 - Books: The name of the author. the title of the book. version. the name of the editor. place of publication: publisher; year. pages.
 - Newspaper articles: The name of the author. the title of the article. the title of the newspaper (edition). date:section:location(column number). If the name of the author was not stated, it may be omitted.
 - Web sites: The name of the author. the title: the subtitle. place of publication: publisher; date of publication [updated date; cited date]. URL.
- 3) Names of authors in references should be as follows:

If there are 5 or fewer authors, the last names and initials of the authors should be written.
If there are 6 or more authors, the last names and initials of the first five authors and “et

al.” should be written.

- 4) Typeset for references is the same as for the main text.

4. Copyrights

- (1) The copyrights of all articles and content of the Journal (including the online version on the web site) are reserved by the Society.
- (2) Before using diagrams and highly original items published in the Journal, users must apply for permission from the editorial committee of the Journal. (E-mail applications will not be accepted.)
- (3) An application for permission should include:
 1. The volume, number, pages, year, title of the article, the name of the first author listed and the page number or number of the diagram for which permission is sought.
 2. The purpose of use.
 3. The full name, address, telephone and fax number, e-mail address and signature of the applicant.
- (4) Diagrams and other items for which permission for use is granted must be stated as citation from the original article in footnotes or references.

編集後記

岩手看護学会誌第3巻第2号をお届けします。本誌も通算第5号を数え、本号には原著1編，研究報告2編が掲載されています。着実に研究成果が積み重ねられていることを嬉しく思います。

さて、去る平成21年10月17日、第2回岩手看護学会学術集会が開催され、17題の演題が発表されました。大会テーマにもありました通り、本学会はいわてから看護を発信できる学会を目指しておりますので、ぜひ皆さまの実践知を論文としてご投稿いただきたいと願っております。なお、本学会では論文投稿支援窓口を開設し、投稿に向けた支援を行なっておりますので、ご活用いただければ幸いです。会員の皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしております。

最後になりますが、今号投稿論文をご査読くださった先生方に心より感謝申し上げるとともに、発刊まで短期間の編集行程にご協力くださった執筆者の皆さまに心より感謝申し上げます。

(田辺 記)

編集委員

浅沼優子(副委員長) 石田陽子 井上都之(副委員長) 蛸崎奈津子 兼松百合子(委員長) 工藤朋子 齋藤貴子
高橋司寿子 高橋有里 田辺有理子 千田睦美 中下玲子 箱石恵子 (五十音順)

岩手看護学会誌 第3巻第2号

発行日 2009年12月31日

編集 岩手看護学会編集委員会

代表者 兼松百合子

発行 岩手看護学会

代表者 武田利明

〒020-0193

岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子 152-52

岩手県立大学看護学部内岩手看護学会事務局

Fax 019-694-2239

E-Mail iwatekango@ml.iwate-pu.ac.jp

URL <http://iwatekangogakkai.res.iwate-pu.ac.jp/>

Journal of Iwate Society of Nursing Science

Foreword

Will You Inquire into the Truth of the Phenomenon Put Aside While in Busy?

Mayumi Miura

1

Original Articles

A Mother's Sentiments towards a Child Conceived through in Vitro Fertilization

Yoshiko Otani

3

Research Reports

Qualifications for an Assistant Professor at Japanese University Schools of Nursing

Yoshihito Endo, Osamu Ito, Yuko Asanuma, Kazushi Yamanouchi

15

Development and a Trial of an Intervention Program to Improve Health Promoting Behaviors of Patients with Hypertension

Kazuko Kikuchi, Yuriko Kanematsu, Yoko Tsuchiya, Sumiko Chiba, Yumi Sasaki, Rie Ando, Takako Saito, Makiko Ishii, Kyoko Noguchi, Tomoko Kudo, Michiko Tsuboyama, Daisuke Ogino, Hiroaki Ambo

24

Special Lecture in the first Academic Meeting of Iwate Society of Nursing Science

Knowledge of Nursing Expressed in Nursing Practice

- Findings from Case Examinations and their Accumulation -

Midori Kawashima

35

Iwate Society of Nursing Science Meeting Reports

Information on the 3rd Conference

42

Minutes of the 2nd Board of Directors Meeting

43

Minutes of a Board Council Meeting

45

Minutes of the General Meeting 2009

47

Agenda Materials of the General Meeting 2009

50

Constitution of the ISNS

67

ISNS Regulations

70

Membership Application Information

71

Membership Application Form

72

Regulations for Submission of Articles

73

Journal of Iwate Society of Nursing Science Submission Guidelines

77

Editorial Postscript

82

Volume 3 Number 2 December 2009